

# 2023年3月期 第2四半期 決算説明会

シスメックス株式会社  
代表取締役会長兼社長 CEO 家次 恒  
2022年11月10日

# Index

## 1. 2023年3月期 第2四半期 決算概要

## 2. 2023年3月期 通期業績予想

### 補足資料

- ・当社グループは、2017年3月期より国際会計基準（IFRS）を適用し、IFRSに準拠して開示しております。
- ・2022年3月期に、クラウド・コンピューティング契約におけるコンフィギュレーションまたはカスタマイゼーションのコストについて、サービスを受領したときにそのコストを費用として認識する方法に変更しており、遡及処理の内容を反映させた数値で2022年3月期との比較を行っています。
- ・本資料のうち、売上予想等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算出しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化により、実際の業績等が予想数値と大きく異なる可能性があります。

## 上期実績

- **売上高および四半期利益は、過去最高を達成**、営業利益は横ばい  
(前年同期比 売上高：115.0%、営業利益：99.7%、四半期利益：109.4%)
  - 第1四半期は中国のロックダウン影響を大きく受けたものの、第2四半期（7-9月）は、中国のロックダウン影響緩和や、その他地域の伸長に加え、円安効果もあり、増収増益
  - 第1四半期を底として、業績は回復基調へ

## 通期業績予想

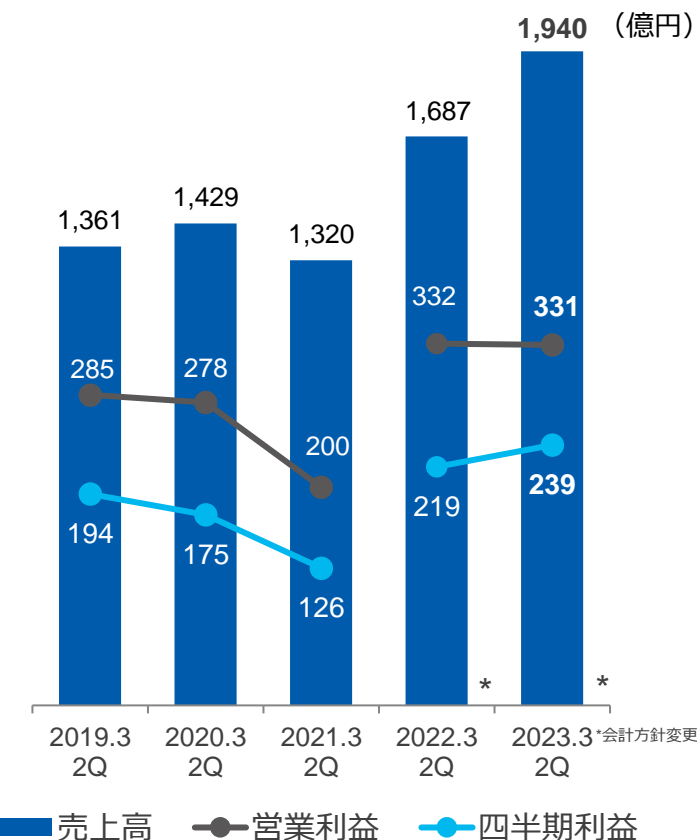
- **通期の売上高を100億円、営業利益および当期利益を10億円、上方修正**
  - 上期実績レートおよび円安基調を考慮し、下期の想定為替レートを変更
  - 期初公表から下期の売上原価を改善させ、加えて販管費の見直しを実施
  - **下期は、売上高を90億円、営業利益を58億円、当期利益を20億円、上方修正**

1.

# 2023年3月期 第2四半期 決算概要

# 決算総括（対前年同期）

(億円)	2023年3月期2Q		前年同期		前年同期比	為替の影響	
	実績	構成比	実績	構成比		影響額	前年同期比 (為替影響除く)
売上高	1,940.2	100%	1,687.5	100%	115.0%	+205.0	102.8%
売上原価	954.8	49.2%	789.3	46.8%	121.0%	-	-
販売費及び 一般管理費	529.8	27.3%	445.2	26.4%	119.0%	-	-
研究開発費	145.2	7.5%	116.1	6.9%	125.1%	-	-
その他の営業損益	21.2	1.1%	△4.3	△0.3%	-	-	-
営業利益	331.5	17.1%	332.5	19.7%	99.7%	+59.8	81.7%
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	239.8	12.4%	219.2	13.0%	109.4%	-	-



## ● 過去最高の売上高と四半期利益を達成

- ✓ **売上高** : 中国を除く全ての地域で増収。引き続き中国のロックダウン影響は残るも、円安効果もあり、2桁増収
- ✓ **営業利益** : 増収であるものの、原材料費などの高騰による原価率悪化もあり、横ばい
- ✓ **四半期利益** : 為替差益のプラス効果もあり、増益

	2023年3月期2Q	前年同期
1USD	134.0円	109.8円
1EUR	138.7円	130.9円
1CNY	19.9円	17.0円

# 単四半期業績推移（1Q→2Q）

売上高の伸長および原価率の改善により、2Qの営業利益は大幅改善

	1Q (4月-6月)		2Q (7月-9月)		対 1Q
	2023年3月期	構成比	2023年3月期	構成比	
売上高	860.2	100.0%	1,079.9	100.0%	+25.5% (伸長率)
売上原価	430.6	50.1%	524.1	48.5%	△1.6pt
販売費及び一般管理費	251.5	29.2%	278.2	25.8%	△3.4pt
研究開発費	69.1	8.0%	76.1	7.0%	△1.0pt
その他の営業損益	1.6	0.2%	19.5	1.8%	—
営業利益	110.5	12.8%	220.9	20.5% (18.6%)	+7.7pt (5.8pt)
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	80.3	9.3%	159.5	14.8%	+5.5pt

第2四半期（7-9月）

## ● 売上高

- 中国の回復、その他地域の伸長および円安効果により、第1四半期に対して+25.5%と2桁伸長

## ● 原価率

- 各種コストの高騰は継続も、円安効果もあり、第1四半期に対して、1.6ptの改善

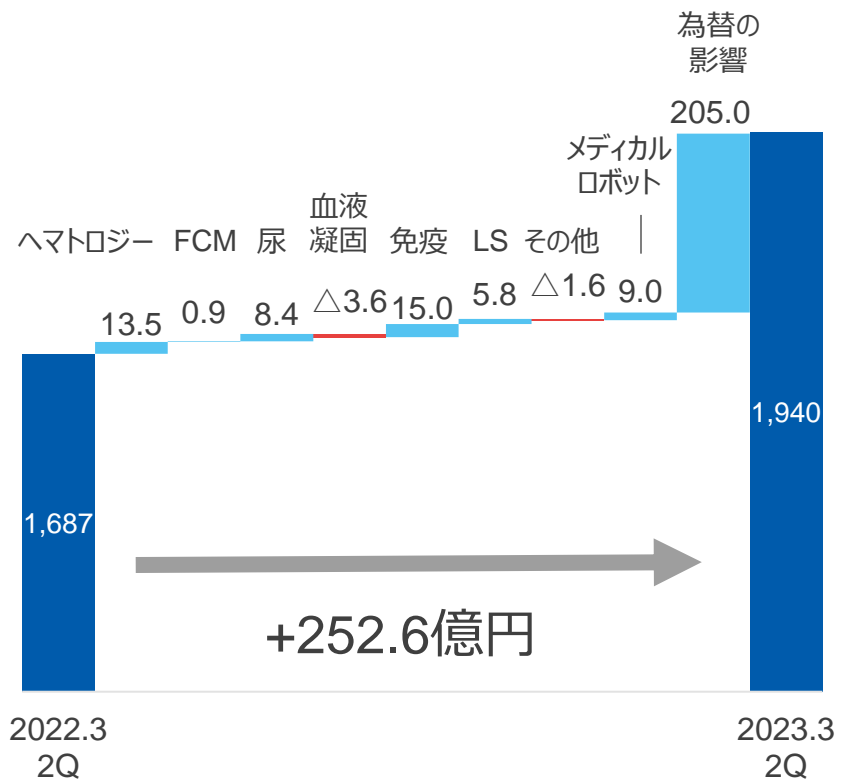
## ● 営業利益率

- 第1四半期に対して7.7pt改善
- その他営業損益の影響を除いても5.8pt改善

※( )はその他営業損益の影響を除いた場合

# 売上高の増減要因（事業別）

事業別売上高（億円）



COVID関連検査（ライフサイエンスと免疫およびその他に含まれる）  
2023.3期2Q累計：34.7 億円（国内31.1億円、海外3.6億円）

（参考）2022.3期2Q累計：37.8 億円  
2022.3期通期：82.2 億円

円ベースでは、主要分野で2桁伸長を達成

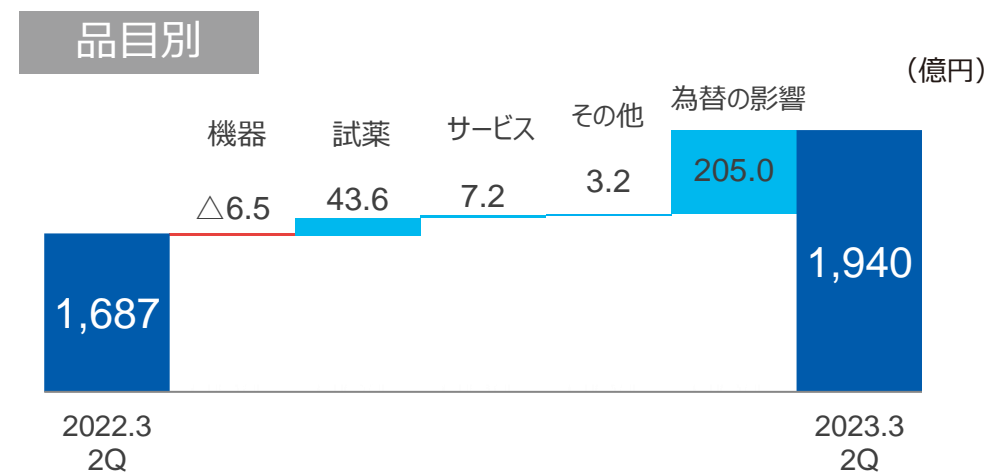
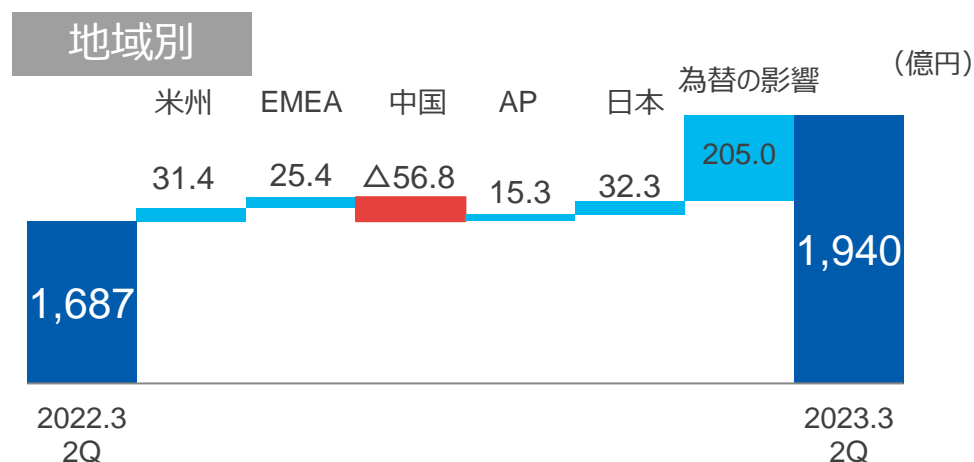
(億円)	2023年3月期 2Q		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	為替影響を除く
売上高	1,940.2	100.0%	115.0%	102.8%
ヘマトロジー	1,144.9	59.0%	114.5%	101.4%
FCM	10.8	0.6%	124.9%	111.3%
尿	156.8	8.1%	122.0%	106.6%
血液凝固	318.2	16.4%	111.0%	98.7%
免疫	108.6	5.6%	126.3%	117.5%
生化学	16.2	0.8%	108.9%	99.3%
ライフサイエンス	92.5	4.8%	112.9%	107.1%
その他	79.1	4.1%	102.9%	98.0%
ダイアグノスティクス事業	1,927.5	99.3%	114.5%	102.3%
メディカルロボット事業	12.6	0.7%	353.9%	-

# 売上高の増減要因（地域別・品目別）

(億円)	2023年3月期 2Q		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	現地通貨ベース
売上高	1,940.2	100.0%	115.0%	102.8%*
米州	502.6	25.9%	131.5%	107.6%
EMEA	551.7	28.4%	112.1%	105.8%
中国	428.6	22.1%	101.7%	86.5%
AP	169.2	8.7%	124.6%	111.3%*
日本	287.9	14.9%	112.7%	—
機器	434.8	22.4%	110.0%	98.4%*
試薬	1,173.1	60.5%	116.3%	104.3%*
サービス・その他	332.2	17.1%	117.2%	103.7%*

※為替の影響を除いた円貨ベースの前年同期比伸長率

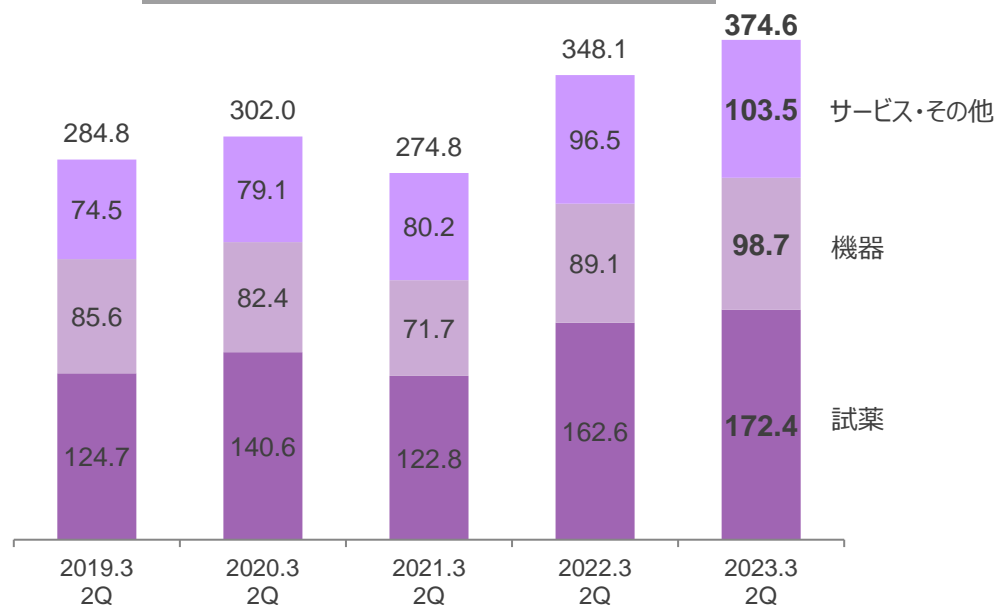
- 米州 : ヘマトロジー分野において北米・中南米の機器売上が伸長した他、北米の尿分野が好調に推移し、**増収**
- EMEA : 尿・血液凝固分野の機器売上伸長および機器設置台数増加による試薬売上の伸長により、**増収**
- 中国 : 円ベースでは増収も、ロックダウンの影響などにより、現地通貨では減収
- AP : 検査需要回復および機器設置台数増加による試薬売上の伸長や機器売上の伸長もあり、**増収**
- 日本 : ヘマトロジー分野を中心に機器が伸長した他、免疫分野の試薬やメディカルロボット事業の伸長もあり、**増収**





(Million USD)	2023年3月期	前年同期	前年同期比	
	2Q		現地通貨ベース	円ベース
売上高	<b>374.6</b>	348.1	<b>107.6%</b>	131.5%
機器	<b>98.7</b>	89.1	<b>110.8%</b>	135.5%
試薬	<b>172.4</b>	162.6	<b>106.0%</b>	129.5%
サービス・その他	<b>103.5</b>	96.5	<b>107.3%</b>	131.2%

売上高推移 (Million USD)



北米およびブラジルなど中南米ともに好調に推移し、  
ヘマトロジー・尿分野を中心に、増収

## ● 機器

- ✓ ヘマトロジー分野において、北米の伸長およびブラジルの販売体制強化により、中南米が好調に推移
- ✓ 尿分野において、北米でのシーメンス社との協業による伸長に加え、ブラジルを中心に中南米も大幅に伸長

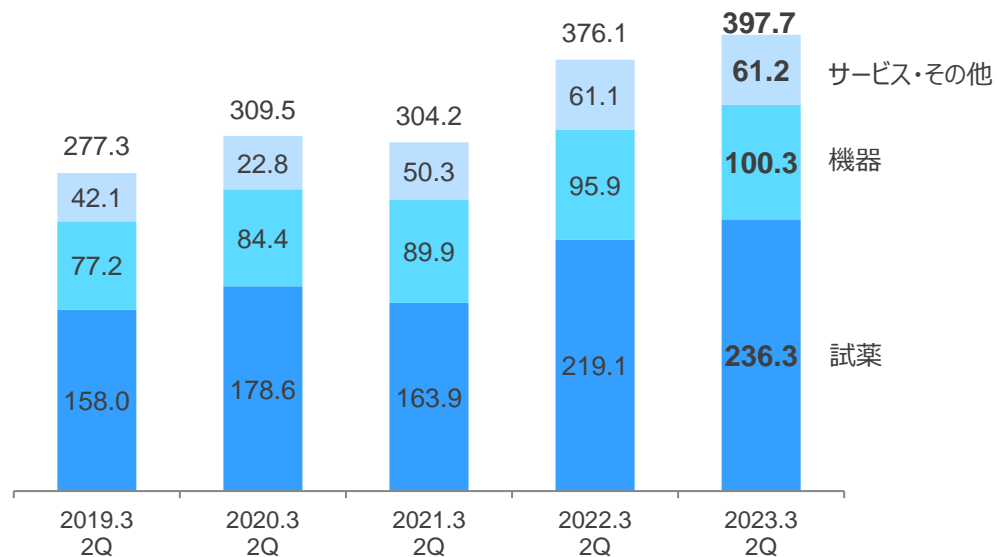
## ● 試薬

- ✓ 尿分野において、北米に加えブラジルの大手検査センターへの機器設置台数増加により、大幅伸長

# EMEA (地域別)

(Million EUR)	2023年3月期	前年同期	前年同期比	
	2Q		現地通貨ベース	円ベース
売上高	<b>397.7</b>	376.1	<b>105.8%</b>	112.1%
機器	<b>100.3</b>	95.9	<b>104.5%</b>	110.7%
試薬	<b>236.3</b>	219.1	<b>107.9%</b>	114.3%
サービス・その他	<b>61.2</b>	61.1	<b>100.2%</b>	106.2%

売上高推移 (Million EUR)



イタリアの大型案件獲得や直販エリアでの機器の伸長に加え、ヘマトロジー分野の試薬が好調に推移し、増収

## ● 機器

- ✓ 大型案件を獲得したイタリアを中心に尿分野が伸長した他、血液凝固分野において、トルコなど直販エリアが好調に推移

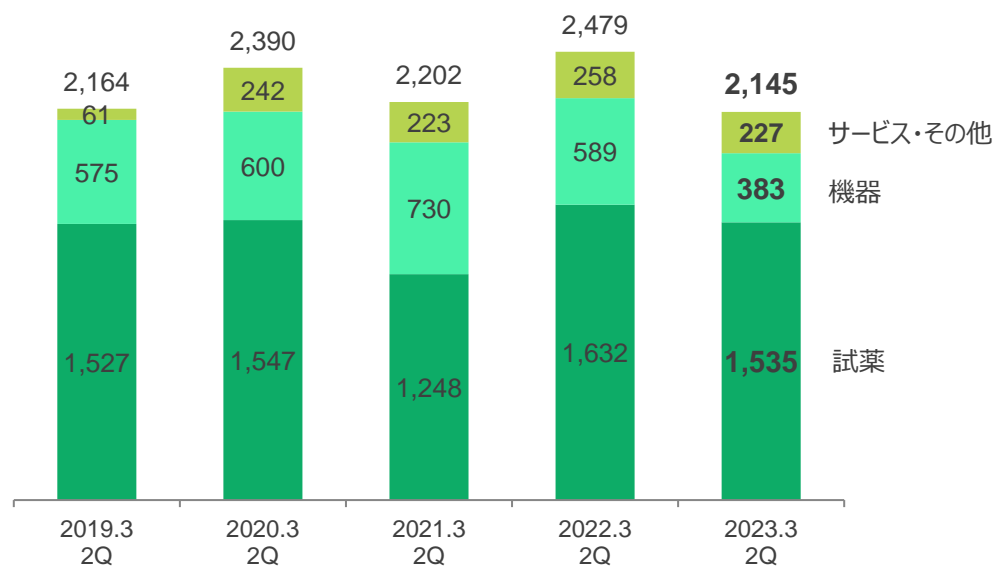
## ● 試薬

- ✓ 機器設置台数の増加により、ヘマトロジー・尿・血液凝固分野を中心に伸長
- ✓ COVID-19関連検査の需要は減少基調

# 中国（地域別）

(Million CNY)	2023年3月期	前年同期	前年同期比	
	2Q		現地通貨ベース	円ベース
売上高	<b>2,145.6</b>	2,479.9	<b>86.5%</b>	101.7%
機器	<b>383.1</b>	589.1	<b>65.0%</b>	76.5%
試薬	<b>1,535.4</b>	1,632.6	<b>94.0%</b>	110.5%
サービス・その他	<b>227.1</b>	258.2	<b>88.0%</b>	103.6%

売上高推移（Million CNY）



ロックダウン影響は緩和し、検査需要が回復基調に転じた2Q単は、対1Qで大幅増収も、2Q累計では減収

## ● 機器

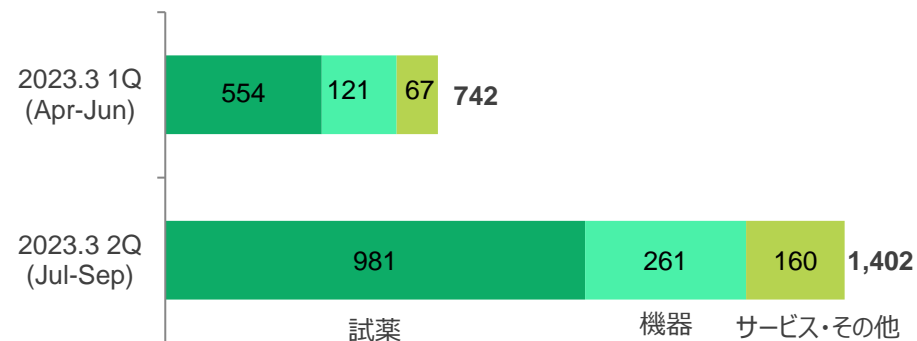
✓ ロックダウン影響に加え、政府調達方針の影響（海外製品の購入延期）により、全分野で減収するも、ロックダウン製品売上は、堅調に推移

## ● 試薬

✓ COVID-19重症化予測に用いられる血液凝固分野が伸長

✓ 2Q単は検査需要回復により、ヘマトロジー・尿分野が回復に転じるも、1Qのロックダウンの影響により、減収

品目別売上高 四半期推移（Million CNY）



(億円)	2023年3月期 2Q	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	<b>169.2</b>	135.8	<b>124.6%</b> (111.3%)
機器	<b>38.3</b>	31.9	<b>120.0%</b>
試薬	<b>116.2</b>	92.3	<b>125.9%</b>
サービス・その他	<b>14.7</b>	11.5	<b>126.8%</b>

ヘマトロジーおよび尿分野において、機器・試薬ともに好調に推移し、2桁増収

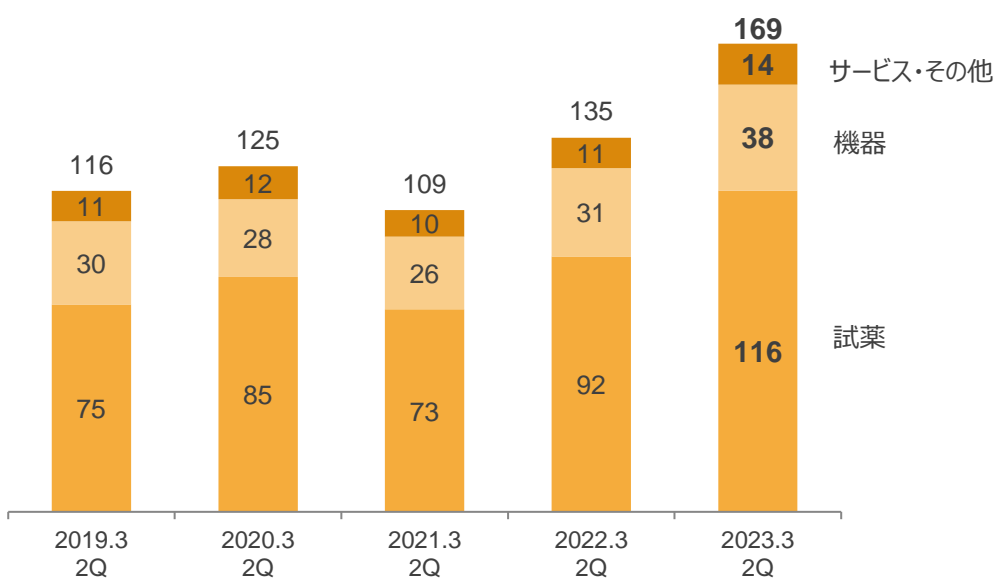
### ● 機器

- ✓ インド、インドネシア、オーストラリア、台湾などにおいて、ヘマトロジー分野が好調に推移
- ✓ 前期好調の反動により血液凝固分野は減収も、インドネシアなどで尿分野が堅調に伸長し、増収

### ● 試薬

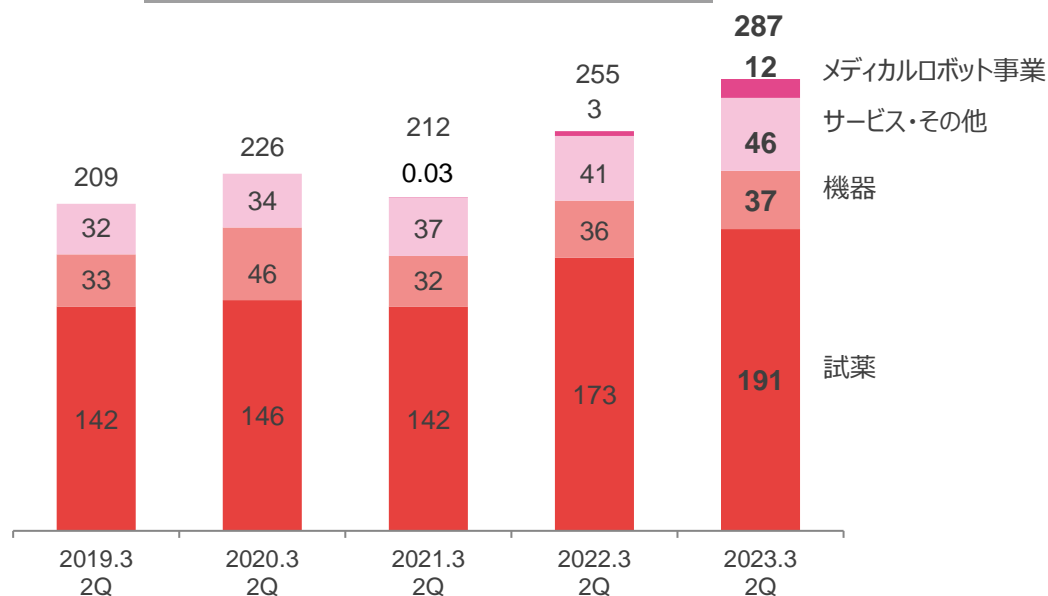
- ✓ 機器設置台数の増加にともない、インド、ベトナム、韓国などにおいて、ヘマトロジー分野が好調に推移し、2桁伸長
- ✓ 検査需要の回復により、尿・免疫分野においても2桁伸長

売上高推移 (億円) \*( )は為替の影響を除いた場合



（億円）	2023年3月期 2Q	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	<b>287.9</b>	255.5	<b>112.7%</b>
ダイアグノスティクス事業	<b>275.2</b>	252.0	<b>109.2%</b>
機器	<b>37.7</b>	36.6	<b>103.0%</b>
試薬	<b>191.3</b>	173.7	<b>110.1%</b>
サービス・その他	<b>46.1</b>	41.6	<b>110.9%</b>
メディカルロボット事業	<b>12.6</b>	3.5	<b>353.9%</b>

売上高推移（億円）



試薬の伸長に加え、ヘマトロジー分野を中心に機器およびメディカルロボット事業が伸長し、増収

## ダイアグノスティクス事業

### ● 機器

- ✓ ヘマトロジー分野において、XR™シリーズが好調に推移し、増収
- ✓ 尿・血液凝固・免疫分野が、好調に推移し、2桁成長

### ● 試薬

- ✓ COVID-19関連検査の増加に加え、免疫・血液凝固分野を中心に伸長し、増収

## メディカルロボット事業

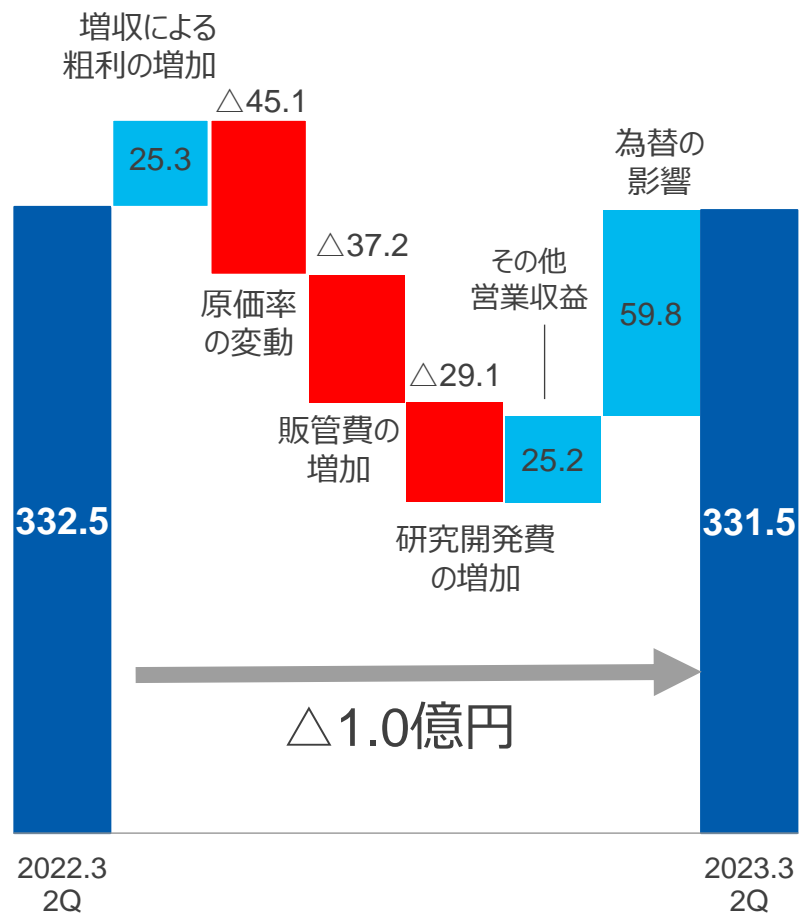
- 2Qに新たに7台を市場導入し、累計導入台数28台※

※販売スキームにより、売上計上の額や時期および期間が様々であり、導入台数と売上高は比例いたしません。

# 営業利益の増減要因 (対前年同期)

## 営業利益

(億円)



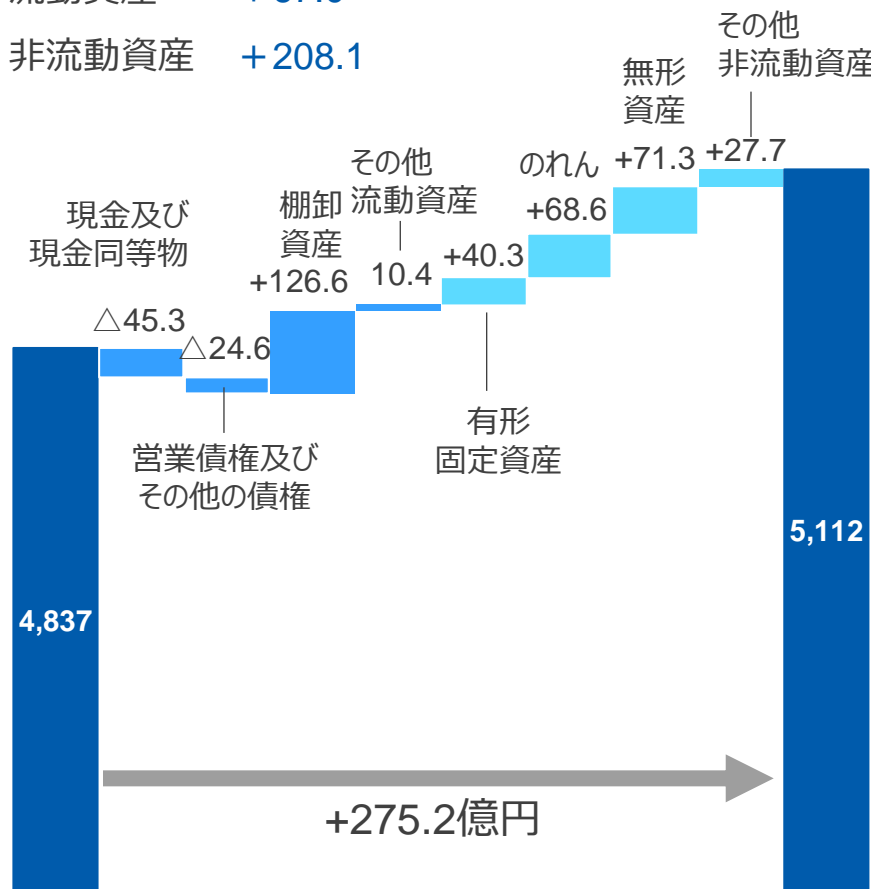
※下記数値・コメントは為替の影響を除く

- 増収による粗利の増加：25.3億円
- 原価率変動による影響：45.1億円（2.6pt 悪化）
  - ✓ プロダクトミックスによる改善はあるものの、原材料費や輸送費の高騰およびサービスコストの増加などにより、悪化
- 販売管理費の増加：37.2億円
  - ✓ 各地域における販売・サービス活動再開および直販体制強化などによる経費の増加
  - ✓ デジタル化関連費用の増加
- 研究開発費の増加：29.1億円
  - ✓ 製品開発への継続投資および薬事関連費用による増加
- その他営業収益の増加：25.2億円
  - ✓ 外部委託倉庫の火災に伴う補償金など
- 為替の影響：59.8億円のプラス影響

# 連結財政状態計算書の増減要因

## 資産

流動資産 +67.0 (億円)  
 非流動資産 +208.1

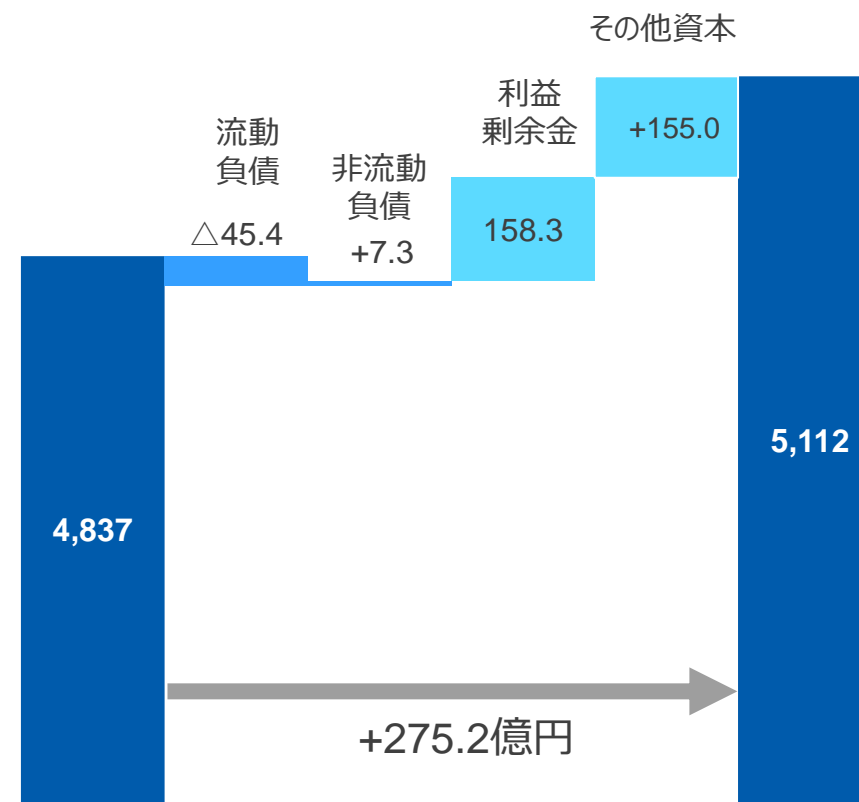


2022.3

2022.9

## 負債・資本

負債 △38.1 (億円)  
 資本 +313.3

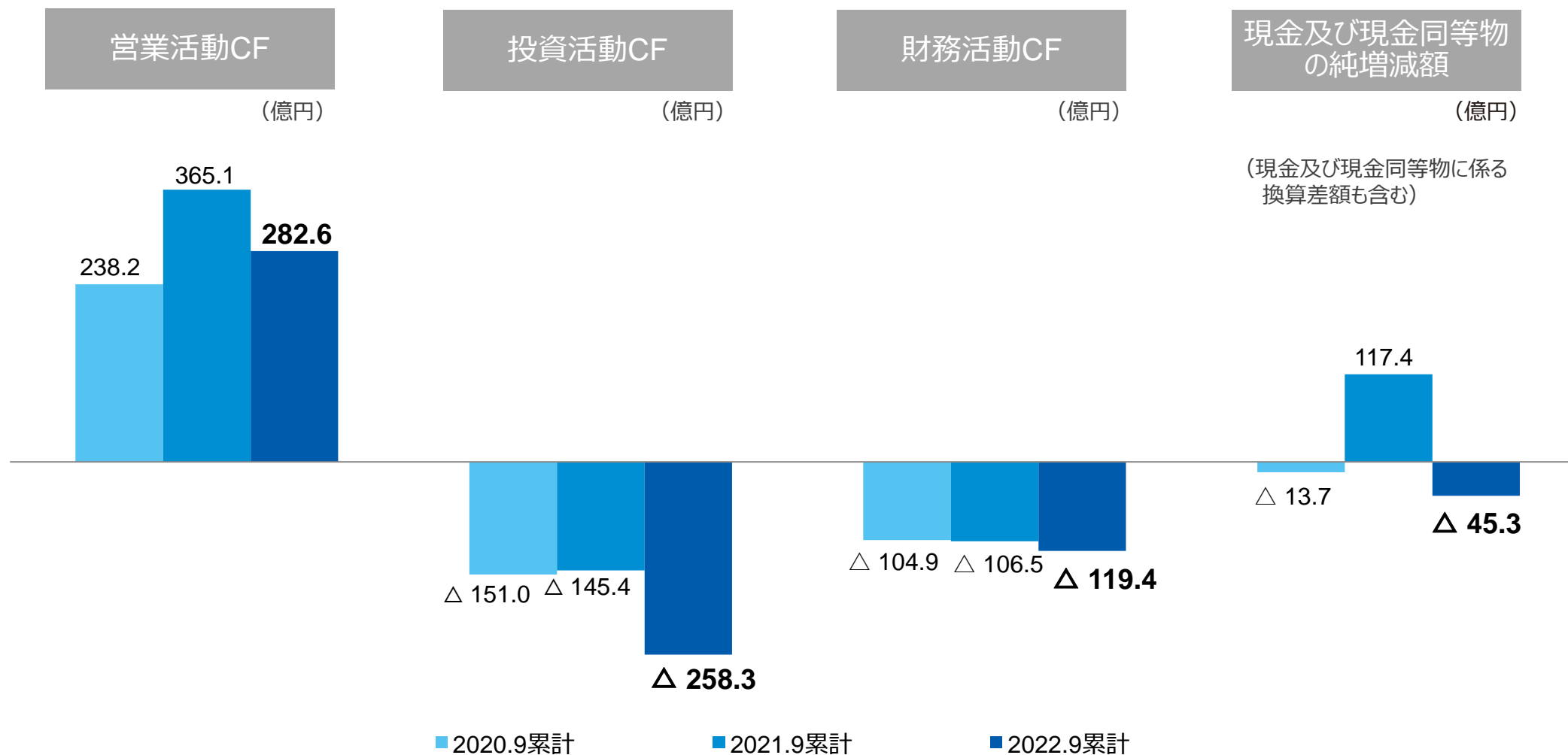


2022.3

2022.9

# キャッシュフローの推移

Astregoの子会社化や、デジタル化投資等により支出が増加し、現金が減少





## ダイアグノスティクス事業

### アルツハイマー検査（血清中のアミロイドβを測定する検査）事業の推進

- 2021年12月に日本のPMDAに薬事申請し、審査は順調に進捗
- 米国におけるLDT（Laboratory Developed Test）は、予定どおり第4四半期から開始予定

### 尿沈渣分野の新製品を発売

- ハイエンドモデルの機能と操作性を継承した小型装置を販売開始（2022年9月/日本）

### OSNA™法を用いたがんリンパ節転移検査システムが子宮頸がん・子宮体がんに適応拡大

- 乳がん・大腸がん・胃がん・非小細胞肺癌に加え、子宮頸がん・子宮体がんへの適応拡大承認を取得（2022年10月/日本）

## メディカルロボット事業

### 手術支援ロボットシステムの消化器外科、および婦人科への適応拡大の承認を取得

- 日本のロボット支援手術の29術式のうち22術式まで拡大（2022年10月/日本）

## サステナビリティ

### ドライアイスフリーによる生化学検査用精度管理試料の供給を開始（2022年9月/日本）

2.

## 2023年3月期 通期業績予想

# 通期業績予想修正

※2022年5月公表より修正



売上高は、100億円の上方修正により、2桁伸長を達成見込み  
営業利益、当期利益を10億円、上方修正

	2023年3月期			2022年3月期		対前年 伸長率 (億円)
	期初公表	修正予想	構成比	実績	構成比	
売上高	4,100	<b>4,200</b>	<b>100.0%</b>	3,637	100.0%	<b>+15.5%</b>
売上原価	1,890	<b>2,000</b>	<b>47.6%</b>	1,731	47.6%	<b>+15.5%</b>
販売管理費	1,130	<b>1,125</b>	<b>26.8%</b>	942	25.9%	<b>+19.4%</b>
研究開発費	335	<b>335</b>	<b>8.0%</b>	267	7.4%	<b>+25.5%</b>
営業利益	760	<b>770</b>	<b>18.3%</b>	674	18.5%	<b>+14.2%</b>
親会社の所有者に 帰属する当期利益	500	<b>510</b>	<b>12.1%</b>	440	12.1%	<b>+15.7%</b>

## 投資計画

設備投資 **418**億円

減価償却費 **305** (325) 億円

### ● 想定為替レート

	通期 (2022年11月修正)	下期 (2022年11月修正)	前期実績 (22年3月期)
1 USD	<b>139.5円</b>	<b>145.0円</b>	112.4円
1 EUR	<b>140.4円</b>	<b>142.0円</b>	130.6円
1 CNY	<b>19.9円</b>	<b>20.0円</b>	17.5円

### ● 為替感応度の概算値 (年間)

	売上	営業利益
USD	7.8億円	1.7億円
EUR	5.6億円	1.6億円
CNY	57.9億円	40.4億円

# 通期業績予想修正（下期詳細）

※2022年5月公表より修正

(億円)	2023年3月期 上期 (4月-9月)		2023年3月期 下期 (10月-3月)				2023年3月期 通期 (4月-3月)			
	実績	構成比	期初公表	修正予想	構成比	増減額	期初公表	修正予想	構成比	増減額
売上高	1,940.2	100.0%	2,170	<b>2,260</b>	100.0%	<b>+90</b>	4,100	<b>4,200</b>	100.0%	<b>+100</b>
売上原価	954.8	49.2%	-	<b>1,045</b>	46.3%	-	1,890	<b>2,000</b>	47.6%	<b>+110</b>
販売費及び 一般管理費	529.8	27.3%	-	<b>595</b>	26.3%	-	1,130	<b>1,125</b>	26.8%	<b>△5</b>
研究開発費	145.2	7.5%	-	<b>190</b>	8.4%	-	335	<b>335</b>	8.0%	-
その他営業損益	21.2	1.1%	-	<b>9</b>	0.3%	-	15	<b>30</b>	0.7%	<b>+15</b>
営業利益	331.5	17.1%	380	<b>438</b>	19.4%	<b>+58</b>	760	<b>770</b>	18.3%	<b>+10</b>

- **売上高**： 下期も中国の経済低迷などの影響が見込まれるが、その他地域の伸長および円安効果により、100億円の上方修正
- **売上原価**： 下期は、コスト低減施策に加え円安効果により、原価率は対上期2.9pt改善見込み
- **営業利益**： 売上高伸長による粗利の増加に加え、為替影響が見込まれる販管費の適切なコントロールにより、上期未達分を補完し、10億円の上方修正

- 年初予想から配当額は変更なし（配当性向：2022年5月より修正）

	中間	期末	年間	配当性向
2022年3月期	37円	39円	76円	36.0%
2023年3月期 (案)	40円	40円	80円	32.8% (33.5%)

※( )内は2022年5月公表数値

当社は、安定的な高成長を持続させるための積極的な投資と、収益性の向上に伴う株主の皆様に対する利益還元との適正なバランスを確保することを目指しております。株主還元については、継続的な安定配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行うという基本方針のもと、連結での配当性向30%を目処に配当を行ってまいります。

# 補足資料

# ヘマトロジー分野「XRシリーズ」の進化



XRと周辺モジュールの接続イメージ

- BT-50：バーコードターミナル
- **世界初の精度管理自動測定機能**
  - 自動スタートアップ・精度管理
  - 自動洗浄・シャットダウンが可能
  - 採血管バーコードラベル読み取り、採血管到着確認

- 日本 : XRシリーズの新モジュールとして、精度管理を完全自動化するBT-50を1Qに販売開始し、上期のヘマトロジー分野における機器売上は2桁伸長を達成
- 米州 : XRシリーズは2025年3月期販売予定であるが、2023年3月期3QよりBT-50 をXN™シリーズへ追加モジュールとして販売予定
- EMEA : 2023年3月期4QよりXRシリーズ（BT-50含む）を販売開始予定
- 中国 : 2024年3月期4Qを予定であるが、23.3月期3QよりBT-50 をXNへの追加モジュールとして販売予定
- AP : 2023年3月期中の販売予定であるが、COVID-19により薬事審査が長期化しており、時期は流動的

# 2Q単四半期実績（対前年同期）

前年同期に対して、売上高は2桁伸長、  
原価率は悪化するも、増収による粗利増加などにより、増益

	2023年3月期2Q (7月-9月)			2022年3月期2Q (7月-9月)	
	実績	構成比	前年同期比	実績	構成比
売上高	<b>1,079.9</b>	100.0%	<b>120.8%</b>	893.9	100.0%
売上原価	<b>524.1</b>	48.5%	<b>126.4%</b>	414.5	46.4%
販売費及び 一般管理費	<b>278.2</b>	25.8%	<b>122.2%</b>	227.6	25.5%
研究開発費	<b>76.1</b>	7.0%	<b>124.5%</b>	61.1	6.8%
その他の営業損益	<b>19.5</b>	1.8%	-	△5.9	△0.7%
営業利益	<b>220.9</b>	20.5%	<b>119.7%</b>	184.5	20.6%
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	<b>159.6</b>	14.8%	<b>131.8%</b>	121.1	13.5%



# 通期業績予想修正（地域別）

※2022年5月公表より修正



(億円)

		期初公表	修正予想 (2022年11月修正)	増減額	増減率	前期実績 (2022年3月期)
売上高		4,100	<b>4,200</b>	+100	+2.4%	3,637.8
地域別	米州	1,010	<b>1,125</b>	+115	+11.4%	836.5
	EMEA	1,060	<b>1,135</b>	+75	+7.1%	1,015.2
	中国	1,055	<b>980</b>	△75	△7.1%	933.7
	AP	325	<b>365</b>	+40	+12.3%	296.0
	日本	650	<b>595</b>	△55	△8.5%	556.1

	通期 (2022年5月公表)	通期 (2022年11月修正)	下期 (2022年11月修正)	前期実績 (2022年3月期)
1USD	120.0円	<b>139.5円</b>	<b>145.0円</b>	112.4円
1EUR	130.0円	<b>140.4円</b>	<b>142.0円</b>	130.6円
1CNY	18.0円	<b>19.9円</b>	<b>20.0円</b>	17.5円

# 会計方針変更の影響（2022年3月期 第2四半期）

クラウド・コンピューティング契約におけるコンフィギュレーションまたはカスタマイゼーションのコストについて、「その他の非流動資産」の計上から、サービスを受領したときに「販管費」として計上する方法へ変更し、2022年3月期に遡及適用。

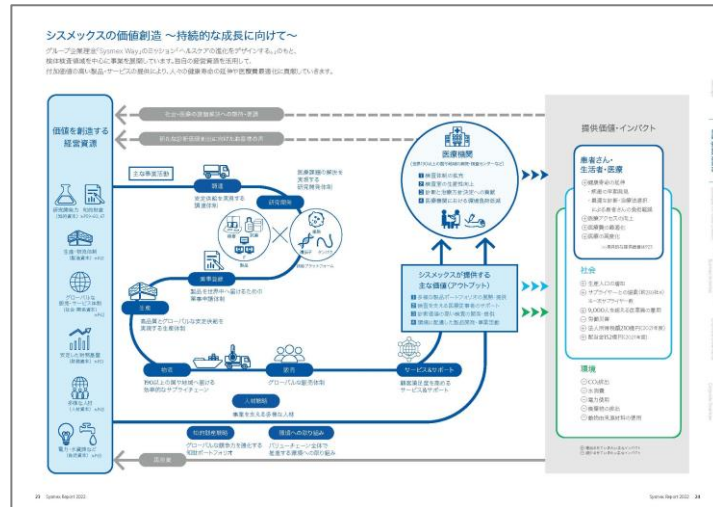
(億円)	2022年3月期2Q (遡及前)		2022年3月期2Q (遡及後)	
		構成比		構成比
売上高	1,687.5	100%	1,687.5	100%
売上原価	789.3	46.8%	789.3	46.8%
販売費及び 一般管理費	440.6	26.1%	445.2	26.4%
研究開発費	116.1	6.9%	116.1	6.9%
その他営業損益	△4.3	△0.3%	△4.3	△0.3%
営業利益	337.1	19.9%	332.5	19.7%
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	222.4	13.2%	219.2	13.0%

# 統合報告書「シスメックスレポート2022」、「サステナビリティデータブック2022」を発行



## 統合報告書「シスメックスレポート2022」

<https://www.sysmex.co.jp/ir/library/annual-reports/index.html>



## 年度報告書「シスメックス サステナビリティデータブック2022」

<https://www.sysmex.co.jp/csr/report/index.html>



サステナビリティ経営  
サステナビリティ目標の進捗状況

サステナビリティ目標	2022年目標	2022年実績	進捗率	2021年実績	2021年目標	進捗率	2020年実績	2020年目標	進捗率	2019年実績	2019年目標	進捗率
CO2削減率	10%	10%	100%	10%	10%	100%	10%	10%	100%	10%	10%	100%
再生可能エネルギー比率	10%	10%	100%	10%	10%	100%	10%	10%	100%	10%	10%	100%
環境負荷低減率	10%	10%	100%	10%	10%	100%	10%	10%	100%	10%	10%	100%
ダイバーシティ推進率	10%	10%	100%	10%	10%	100%	10%	10%	100%	10%	10%	100%
従業員満足度	10%	10%	100%	10%	10%	100%	10%	10%	100%	10%	10%	100%
顧客満足度	10%	10%	100%	10%	10%	100%	10%	10%	100%	10%	10%	100%
社会貢献度	10%	10%	100%	10%	10%	100%	10%	10%	100%	10%	10%	100%
労働安全衛生	10%	10%	100%	10%	10%	100%	10%	10%	100%	10%	10%	100%
品質管理	10%	10%	100%	10%	10%	100%	10%	10%	100%	10%	10%	100%
財務健全性	10%	10%	100%	10%	10%	100%	10%	10%	100%	10%	10%	100%
株主還元	10%	10%	100%	10%	10%	100%	10%	10%	100%	10%	10%	100%

## トピックス

「シスメックスレポート2021」が、  
米国アニュアルレポートのコンペティションにて受賞

2021 Vision Awards

Annual Report Competition

・GOLD WINNER WORLDWIDE など



Lighting the way **with diagnostics**